

# 伊賀焼

土の風合い、炎の変化、  
野趣な侘び、そして用の美。  
伊賀焼は不思議なほど力強い。

伊賀焼は16世紀後半、侘び茶の広がりとともに茶陶として注目され、伊賀の領主・筒井定次らが生産を奨励して発展した。伊賀焼の陶房が多く集まっている伊賀市丸柱地区は、昔は琵琶湖の底だった場所で、「古琵琶湖層」と呼ばれる耐火度の高い土が採れた。気孔が多く、水分や熱を蓄えるのにも優れている。水差しや花入れなどの茶陶だけでなく、土質から言えば、土鍋や行平にも向いている。料理好きの人の間で今、丸柱地区発の土鍋がちよつとしたブームになっているのもうなずける。

ところで、中期の伊賀焼と信楽焼は区別がつきにくいと言われるが、隣り合う産地で性質が似た土を使うためと思われる。この2つを見分ける方法として「伊賀に耳あり信楽に耳なし」という言葉がある。古い伊賀焼には「耳」と呼ばれる裝飾が付いており、ここに作家の情念が集約されていると言つ。



古伊賀水指 銘「鬼の首」(桃山時代)  
石水博物館所蔵



経済産業大臣指定  
伝統的工芸品・  
伝統的工芸用具

## Museum

### 古今の名品を鑑賞し作陶・焼成を体験する

伊賀焼隆盛の地・丸柱地区で、伊賀焼の魅力を紹介する資料館。  
五感を働かせて、土と炎の芸術に触れてみたい。

安土桃山時代の茶の湯の美意識にぴたりとはまった伊賀の焼き物。伊賀焼の里丸柱地区にある「伊賀焼伝統産業会館」に足を運ぶと、地元の窯で焼かれた名品をはじめ、鎌倉時代にまで遡る古陶器の数々を鑑賞することができる。

現存する古い伊賀焼は少ないとも言われるので、ぜひ触れておきたい。伊賀焼は、窯変による焼き上がりの偶然性が最大の魅力だ。窯の力、炎の力、それに負けない土の力には圧倒されることだろう。また、荒々しく重量感に満ちたたた

ずまいをじつと眺めていると、その「趣」の深さがじんわりと伝わってくる。

また、同館では伊賀焼の製造過程や製法の移り変わり、歴史などを実物やパネルで紹介すると同時に、後継者を育てる技術指導も行っている。未来の陶工に混じって陶芸体験をすることもでき、こちらも人気を集めている。伝統ある伊賀焼を身近なものに感じられることだろう。

**見どころ** 作陶体験はもちろん、年代物から現代の名品まで伊賀焼を幅広く展示紹介しており、即売もある。付近には陶房も多いので、窯元めぐりも楽しめる。



#### 伊賀焼の特徴

- 1 土／太古の琵琶湖湖底に堆積した土が良質の粘土となった。
- 2 破調・耳／勢いある炎による大きな山割れ、素朴なゆがみ、微妙なバランスで付けられた耳など、整った形をあえて崩した美しさ。
- 3 火色／炎の勢いをそのまま映したような赤い色。窯の最前列の一番下の作品だけに見られる焦げ。豪快さを感じさせる。
- 4 灰かぶり・ビードロ／窯の中で薪の灰が降りかかる。それが時として、溶けて青ガラスのような透明感が生まれる。
- 5 無釉焼締め／小石混じりの無骨な肌合い。高温の炎による力強さがある。

## 伊賀焼伝統産業会館

- 伊賀焼伝統産業会館
- 伊賀市丸柱169-2
- 電話・FAX／0595-44-1701
- URL／http://www.igayaki.or.jp



広域地図 126頁/E-4

- 交通／JR伊賀上野駅よりタクシーで10分、柘植駅より20分。名阪国道壬生野ICより15分
- 駐車場／20台

## INFORMATION



### 伊賀焼作品見学 展示・映像学習 陶芸体験

古今の伊賀焼の作品見学や、展示・映像による伊賀焼の土や歴史、製造工程などの学習ができるほか、陶芸も体験できる

- 時間／9:00～17:00
- 休み／月曜(祝休日の場合は翌日)、年末年始
- 受入可能人数／70人まで
- 所要時間／1～2時間
- 料金／入館料は大人200円、中高生 100円。陶芸体験は1000円(粘土0.5kg)～、電動ろくろ使用3000円(粘土代込)
- その他／陶芸体験は1人から可(10人以上は事前予約要)

ご予約・お問い合わせ  
☎0595-44-1701